

日本人のスポーツにおける勝敗観—日本人と西欧人のスポーツにおける相性を対比して

The Japanese attitude towards winning and losing of sports: The comparison of ability to adapt to sports between Japanese and Westerner

1K03A178

指導教員

主査 志々田文明先生

平山 直伸

副査 宮内孝和先生

I はじめに

オリンピックレベルの選手を育てるには非常に金銭がかかるため、経済的に余裕がないとなかなかこのようなレベルの選手は育てられないという説が唱えられている。しかし、日本の経済力が世界2位となってから20年以上経つにも関わらず、なぜ日本のスポーツ競技力は世界と比較して高いとはいえないのだろうか。その理由は1)日本人とスポーツの相性があまり良くないこと2)日本人の持つ精神性がスポーツにおいて勝利を収めることに対して貪欲ではないことが挙げられる。日本人から見ると、アメリカを筆頭とした西欧の国々は、勝利至上主義または優勝劣敗主義であると指摘する者が多くいる。一方で、勝てば嬉しい、勝つために競技を行うという観念はスポーツに従事する者にとっては民族を超えて共通なもののようにも感じられる。

そこで本論文では、a)日本人のスポーツにおける身体的な相性と精神性を関連づけて論じた上で、b)今後、日本人のスポーツにおける勝敗観が、グローバル化が進むにつれてどのように変わっていくことが望ましいのかを考察することを課題とする。また、c)西欧特にアメリカを比較対象として、その身体的部分と精神性を関連づけて考察し、文化の変容と保存の両面から論じていく。

主な参考文献は以下の通りである。

- ・ 三浦雅士(1994) 身体の零度. 講談社選書メチエ: 東京
- ・ 大築立志(2002) 日本人と西欧人の運動観とスポーツ. 中村敏夫編. 日本人とスポーツの相性. 創文企画: 東京

- ・ 小澤英二(2002) 日本人の勝敗観とスポーツ. 中村敏夫編. 日本人とスポーツの相性. 創文企画: 東京

II 日本人と西欧人の運動観の違い

主に日本人と西欧人の、動きに対する評価の違い、動物に対する評価の違いを述べ、それが食料獲得手段に起因することを述べた。また、食料獲得手段が個々の民族の身体を規格化する大きな要因となることを述べた。

III 日本人と西欧人のスポーツにおける身体的相性の対比

日本人は足の支持機能ばかり使っているのに対し、西欧人は足の支持機能以外の操作機能や移動機能も多用している。このことは単に文化の違いが原因であり、日常生活で差が生まれるとは考えられない。しかし、スポーツでは厄介な問題である。これは、スポーツは足の支持機能以外を多用して行う身体活動だからだ。つまり、多くのスポーツは足の支持機能以外を多用する西欧人向けに作られた身体活動なのである。その理由は、スポーツは西欧で考案・開発・改変されたので、西欧人の身体に適応しているとした。

IV 日本人と西欧人の勝敗観の違い

日本人と特にアメリカ人とを比較して行う。勝利についての感覚は日本人とアメリカ人の両者に勝利至上主義が見られる。しかし敗北については、アメリカ人は次に勝利の糧とならない敗北には価値を見出さないが、日本人は敗者へのいたわりと

も呼べる心情がある。これは日本人の英雄像に見受けられる、主義主張の有効性、目標の合理的正当性は重要ではなく、主義を主張するときに持つ純真さを重要とすること、すなわち「誠」の概念が大きく関わっているとした。

V 結論

- 1) 身体は文化という大きな概念によって規格化される。また、文化は人の概念を規定する。そのため、身体活動を必ずともなうスポーツでは身体的相性や勝敗観が民族によって異なる。このことによって、身体の本質的部分を変え

たいのならば、文化が変わらなければならぬということを考えた。

- 2) アメリカで発明されたスポーツはメンバーチェンジをルールとして認めているものがほとんどである。このことは、人間の機能だけを評価してしまう傾向に繋がるため、さまざまな見地から物事を判断する人物を排出できなくなる恐れがある。しかし、スポーツで勝つためにはアメリカ人の勝敗観の概念を見習う必要性もある。そこで我々日本人はアメリカから吸収するものを精査する必要があると結論づけた。